令和６年度　小学生「赤ちゃんとのふれあい体験」　実施報告書

知多市児童センター

１．事業目的

本事業は、小学校６年生を対象に赤ちゃんとふれあう中で、赤ちゃんの成長過程と親とのかかわり、子育ての大変さと成長の喜び、大切に扱われている命について改めて感じ、そこから親、家族、そして自分を取り巻く周りの人の思いや、すべての命の大切さについて考える機会とします。

なお、国は、児童が乳幼児とふれあう取組を児童館の事業と位置付けており、市としても本事業を『第２期知多市子ども・子育て支援事業計画』（計画期間：令和２年度～令和６年度）の施策に掲げ実施しているところです。また、『知多市子ども計画』（計画期間：令和７年度～令和１１年度）においても本事業を主要事業に位置付けています。

小学生	親子とのふれあいを通し、赤ちゃんの愛らしさや温かさ、子育ての喜びや大変さ、親への感謝の気持ち、家族との絆、命の大切さを感じる機会とします。思いやりの心を育てるとともに、今まで親から受けてきた愛情について考えるきっかけをつくります。
親	赤ちゃんと小学生とのかかわる姿を通して、わが子への愛情を再確認するとともに、自分の子どもの成長や将来をイメージします。 事業に参加することで、親になる次世代の教育を支援するという社会参加、社会貢献に繋がっていることを感じ、保護者自身の子育てに対する評価と自己肯定感を高めます。

２．実施校・開催日等

実施校	開催日	クラス	親子人数
新田小学校	５月２１日(火)　２２日(水)　２３日(木)　２４日(金)	４	３３組　６７人
新知小学校	６月　４日(火)　５日(水)　６日(木)	３	４２組　８５人
佐布里小学校	６月１２日(水)　１３日(木)　１４日(金)	３	４０組　８２人
南粕谷小学校	６月２０日(木)	１	１２組　２４人
旭東小学校	６月２６日(水)	１	１１組　２２人
つつじが丘小学校	７月　４日(木)　５日(金)	２	２３組　５０人
岡田小学校	９月１１日(水)　１２日(木)　１３日(金)	３	４８組１０１人
八幡小学校	１０月９日(水)　１０日(木)　１１日(金)　１６日(水)	４	５３組１１３人
旭南小学校	１０月２４日(木)　２５日(金)	２	２６組　５３人
旭北小学校	１２月　３日(火)　５日(木)　６日(金)	３	３７組　８７人

３．内　容

（１）事前学習

・体験の目的や、ふれあい時の注意事項、赤ちゃんの発達について、過去のふれあい体験の映像を見ながら学習する。

（２）ふれあい体験

・親子と小学生のペアをつくり、入室後自己紹介をする。

・ペアの赤ちゃんと一緒に遊ぶ（自由遊び）。

・考えた質問を遊んでいる時間にする。

・手遊び、大布遊びなどで一緒に遊ぶ（ふれあい遊び）。

（３）感想記入（保護者）

・親が感想を記入している間、小学生が赤ちゃんと遊ぶ（リズム遊び）。

（４）小学生の挨拶

・小学生と担任教諭が感想やお礼の気持ちを伝える。

（５）後日保護者の感想を提出（児童センター）

・児童センターが保護者から生徒へのメッセージをまとめ、後日学校に届ける。

４．児童の感想（抜粋）

・赤ちゃんとのふれあい体験をして、自分よりも小さいけれど命の大切さを知ったり、自分もこうだったのだろうなと考えたり、自分の成長を感じたりしました。

・赤ちゃんも自分なりに一生懸命生きていて、今日会った赤ちゃんのような時代が自分もあって、生まれてから色々な人に支えられながら今まで生きてきたと思うと、育ててきてくれた人や、周りの人に感謝したいです。今日会った赤ちゃんが産まれていなかったら、今日私はその赤ちゃんに会えていないし、今日会ったその子のお母さんもお母さんじゃないと考えると、生命は繋がっていて、この人が生まれていなかったらどうなっていたと言うことを考えると生命は大切だと思いました。

・赤ちゃんが泣いてしまった時でも上手にあやすお母さんがすごいなと思いました。大変なことでも嫌な顔を見せず笑顔で遊んであげているお母さんも大変そうだなと思いました。自分を育ててくれたお母さんにこれからも感謝したいと思いました。

・赤ちゃんとふれあってみて、急に泣き出したり、急にどこかに走っていっちゃったりしたので大変でした。でも、自分もきっとこういう時期があったのだろうな、これも成長するための過程なのだな、と思うと、それを見ていて微笑ましくなりました。自分から何かに興味を持ったり、自分で喋ったりすると、親のように嬉しくなりました。ふれあい体験が終わったあとにどうして自分と血の繋がってない子をみてあんなにも感動したんだろう？と考えてみました。すると、きっと今思えば、昔の自分と、ふれあってくれた子を重ねていたんじゃないかなと思います。その子をみて嬉しくなったから、きっと自分の親も私と同じように思ってくれていたんじゃないかなと思いました。

５．保護者の感想（抜粋）

・すごく楽しそうに遊んでいたので、参加することができてよかったです。子どもが小学生になった時、同じように赤ちゃんとふれあい体験ができたらいいなと思いました。

・初めてふれあい体験を経験させてもらいましたが、とても楽しかったです。小学６年生の子は本当によく考えて動いてくれて、我が子もこんな風に育ってくれたらうれしいなと思いました。

・自分の母校だったので、参加できて嬉しかったです。なんとなく知っていたけど、小学生がタブレット使っているのはビックリでした。１０年もしないうちにここまで成長するのもすごいなーと思うほど、６年生もしっかりしていて感心しました。楽しい時間をすごせました。子どもも遊んでもらえて楽しそうでした。

・赤ちゃんと触れ合うことはあまりないと言っていたけど、すべり台では落ちないように後ろに座ってくれたり、手を添えてくれたり、赤ちゃんのために関わってくれていてすごいなと思いました。「目線の高さは同じって言ってたよね」と言って、授業で聞いたことを思い出しながらの関わりもさすが小学生だなーと思い、うれしかったです。

６．まとめ

令和６年度は、小学校１０校の６年生全２６クラスで、ふれあい体験を実施しました。

アンケート結果（別紙１）では、赤ちゃんとのふれあい体験を「楽しみ」と回答した児童は、体験前には７９．３％でしたが、体験後には「楽しかった」と回答した児童は全体の９５．５％になりました。「どちらともいえない」と回答していた児童が、体験前全体の１３．２％から体験後には２．９％となったことから、赤ちゃんとふれあい、親から話を聞くことで、「楽しかった」と感じた児童が増えたのではないかと思います。

また会場でも「めちゃめちゃ可愛い」「楽しい！」との声が聞かれました。ふれあい体験後もペアの赤ちゃんと離れ難く、名残惜しげに教室に戻っていく児童もいました。

児童は、目の前にいる赤ちゃんを見て、参加した保護者から子育ての話を聞き、「自分もこのように大切に育てられたのかな」と、親への感謝の気持ちを再認識し、体験後の感想に記載している児童が多数いました。ふれあい体験で小さい子と関わる経験をしたことで、自分の子どもの頃のことを両親に聞き、両親に感謝したいという新聞への投稿もありました。（別紙２）

ふれあい体験を通して、児童は赤ちゃんの愛らしさを実感し、自然に笑顔になり、小さな命を思いやる姿が見られました。このように、赤ちゃんとの関わる姿を見て事業の趣旨が児童に伝わったことを実感しました。

開催にあたっては荷物の運搬や場所の確保など学校に協力いただき、滞りなく行うことができました。また、パワーポイント視聴やアンケートのＱＲコードの読み込みについて、グーグルドライブの利用を提案していただき、合理的な実施につながりました。

今後もいろいろなご意見をいただきながら、ふれあい体験事業を継続していきたいと考えています。